

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

ブナを育成する会 「水と森の分校」

② 発表団体名

大山横手道上ブナを育成する会

③ 発表概要

1. 対象学校と活動内容及び活動場所

鳥取県伯耆町立八郷小学校 4年生 13～18人(別 引率先生3名)

校外学習に 4回／年 (3～3.5時間／回)

2. 体験

(1) 水の学習

場所 伯耆町丸山地区 地藏滝の泉(平成の名水百選)

内容 11度の湧き水の源は大山、水の利用

(2) 森の学習

場所 大山・隠岐国立公園 ブナ林

内容 森の働きと役割、本物の森と人工林、自然との対話能力にスイッチ

(3) 木を植える学習

場所 大山ふれあいの森

内容 苗抜きと根の養生、木を植える、適地適木

(4) 冬の森の学習

場所 大山ふれあいの森とブナ林

内容 冬芽の観察、雪の森(スノーシューを履いて)

* 学校と会員の参加者に事前に資料の配付

* 当日の移動はマイクロバス その移動時間を利用して今日の目的等の説明と帰りには感想を聞く

また、2回／4回は子供たちと給食を共にしながら語り合うことにしている

感受性豊かな子どもたちに育てて欲しい

3. 活動の成果

1学期終わりの頃に実施する(森の学習)の頃から子供たちにはかなりの変化が見られます。ほとんどの子供が、「五感」を通して自然との会話が出来たことを感想文に書いています。例えばこんなことまで「この日の午後のテストは頭がフル回転してよく分かりました」と。すなわち子供たちの感想文や懇談会で、「五感」という言葉が何の抵抗もなくすんなりと使われている。これは凄いことなんだと思います。

「水と森の分校」を何年も続けてきたので、毎年子供たちは変わっても子供たちから子供たちへ、先生から先生へと自然の偉大性を思う畏敬の念が芽生え、育成しながら受け継がれたのだろうと想像しています。

3年前に子供たちが「ふるさと八郷」という歌の作詞まで作ったのもうなずけます。子供たちは打てば響きます。先生もすぐに作曲され、歌は凄く評判がよく学校内外でも広く歌われています。行き帰りのバスの中でも皆で歌います。

最近の表彰 全日本学校関係緑化コンクール準特選
鳥取県美しいもりづくり功労者

また、子供たちと接することによって、ブナを育成する会の仲間のモチベーションも上がりました。

4. 今後

基本的には今までどおり、学校と連絡を密にしながら進めて行きたい。

可能ならば学年を変えて、水量豊かで美味しい水のある環境の中で過ごす子供たちに、これからは世界の水事情を教えながら体験を通しての節水教育を取り入れたい。

具体的には水ジャーナリストの橋本淳司先生の指導を考えている。